

2040年までの経済・金利見通し

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 星野 卓也

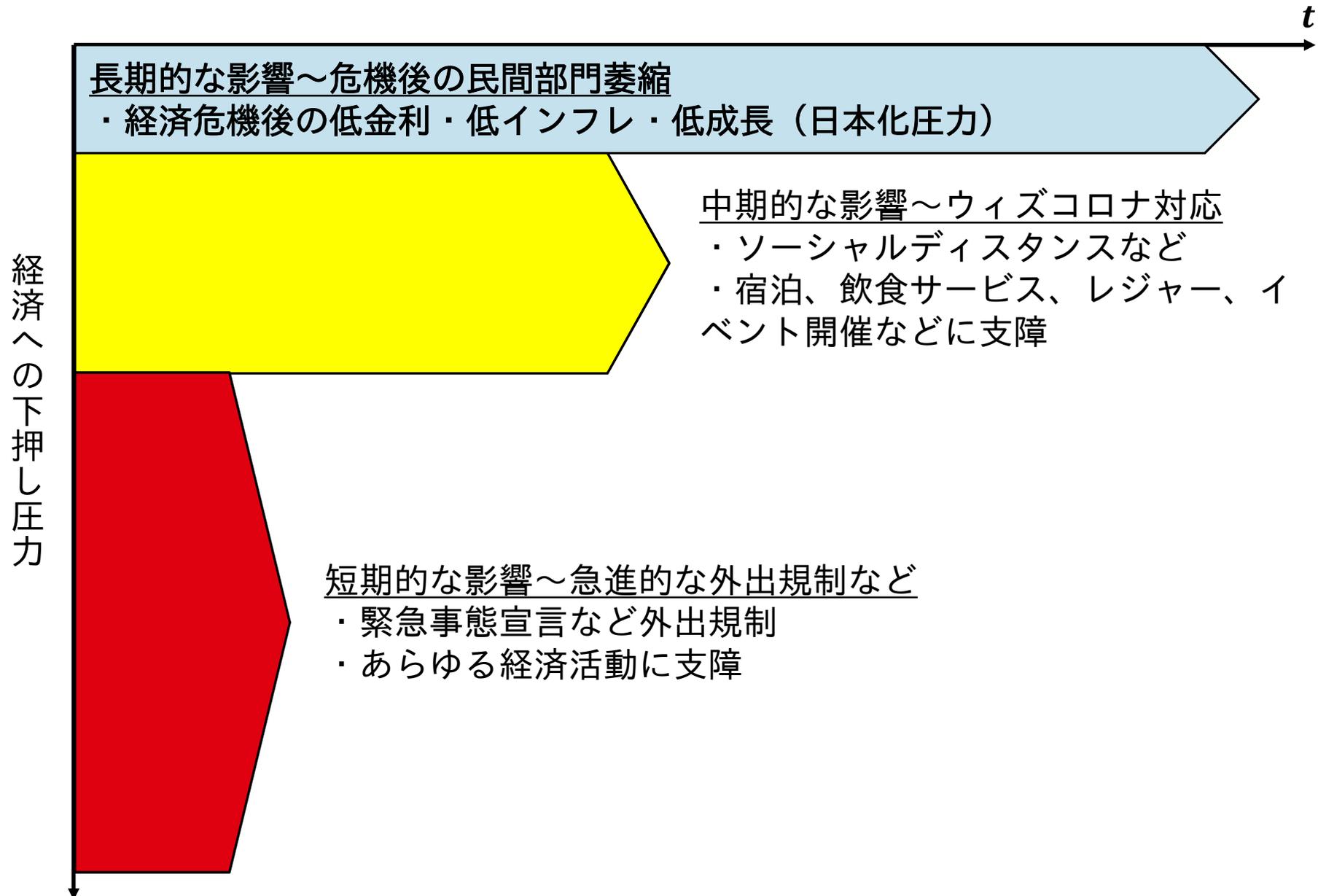


DAI-ICHI LIFE
RESEARCH INSTITUTE INC.

- 新型コロナは中長期の成長率にマイナスに働く。過去にもみられた経済危機後の民間部門慎重化、拡大したマクロ経済政策の巻き戻しが長い目で重石に
- 主要国で高齢化が進行。日本では2040年にかけて団塊ジュニア世代が高齢者に。
- 日本の経済成長率は2030年以降人口動態面での下押し圧力が強まる。シミュレーション上、2030年代後半はマイナス成長
- YCC・マイナス金利解除は2020年代後半に。長期金利はその後も成長率・インフレ率自体の低迷のもとで上昇余地が乏しく、0.5%を下回る水準での推移を見込む



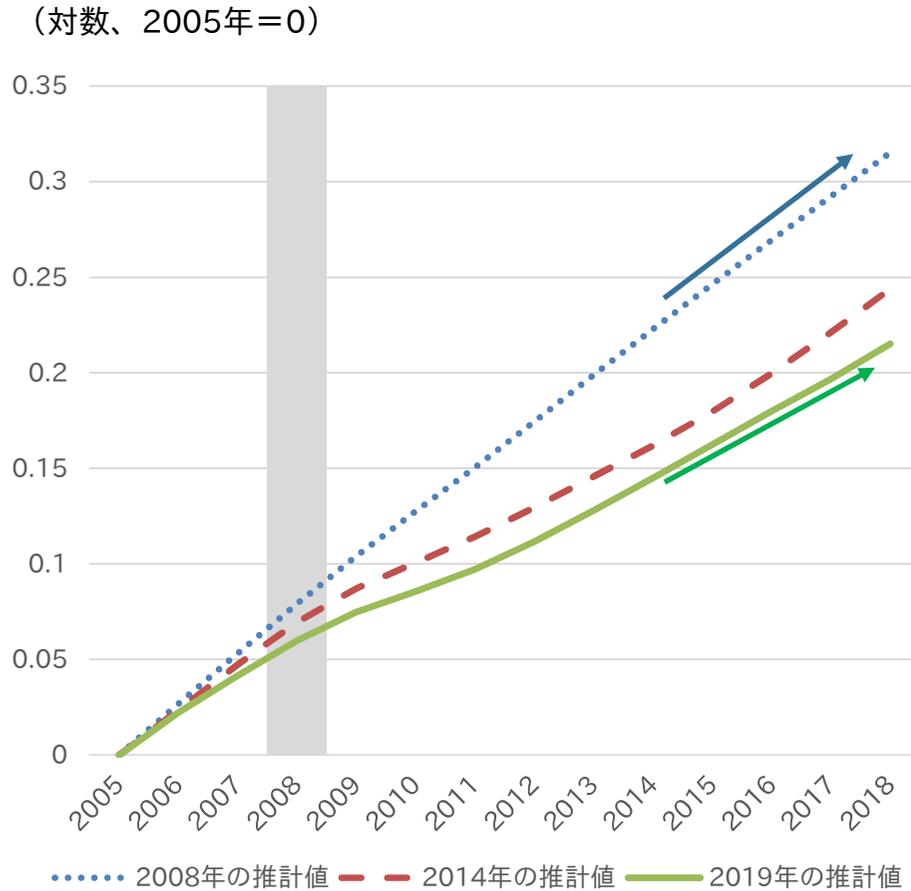
コロナがもたらす3種類の下押し圧力





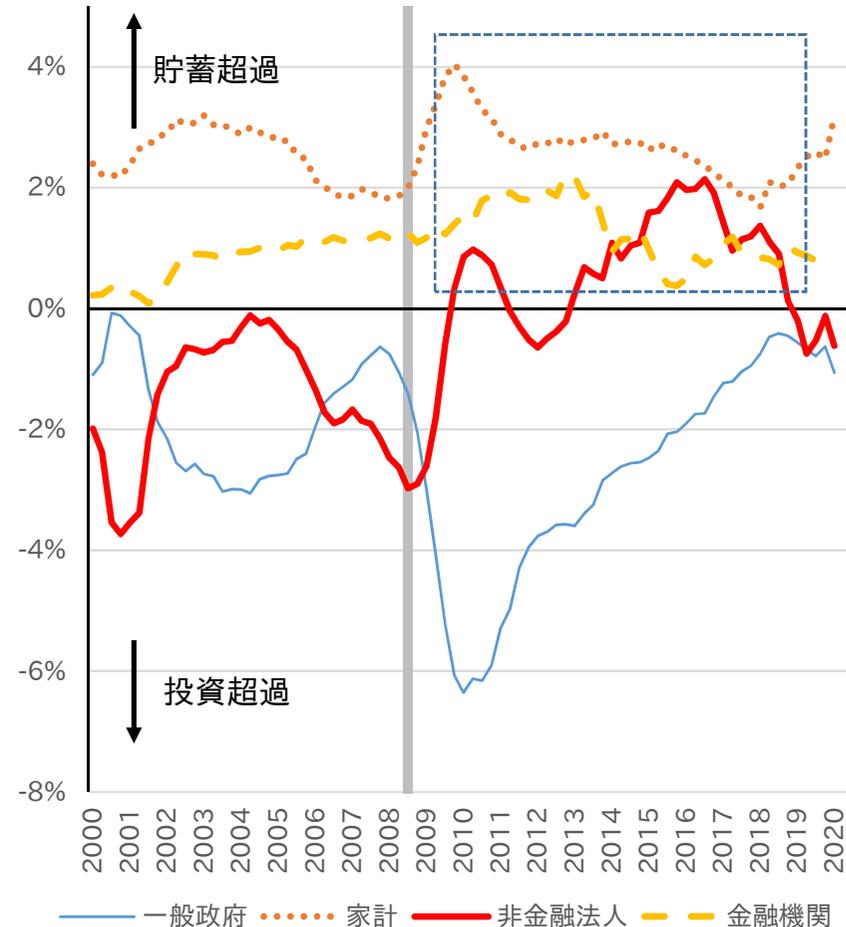
経済危機は長く尾を引く

アメリカの潜在GDP



(出所) CBOより第一生命経済研究所作成。

ユーロ圏のISバランス (GDP比)



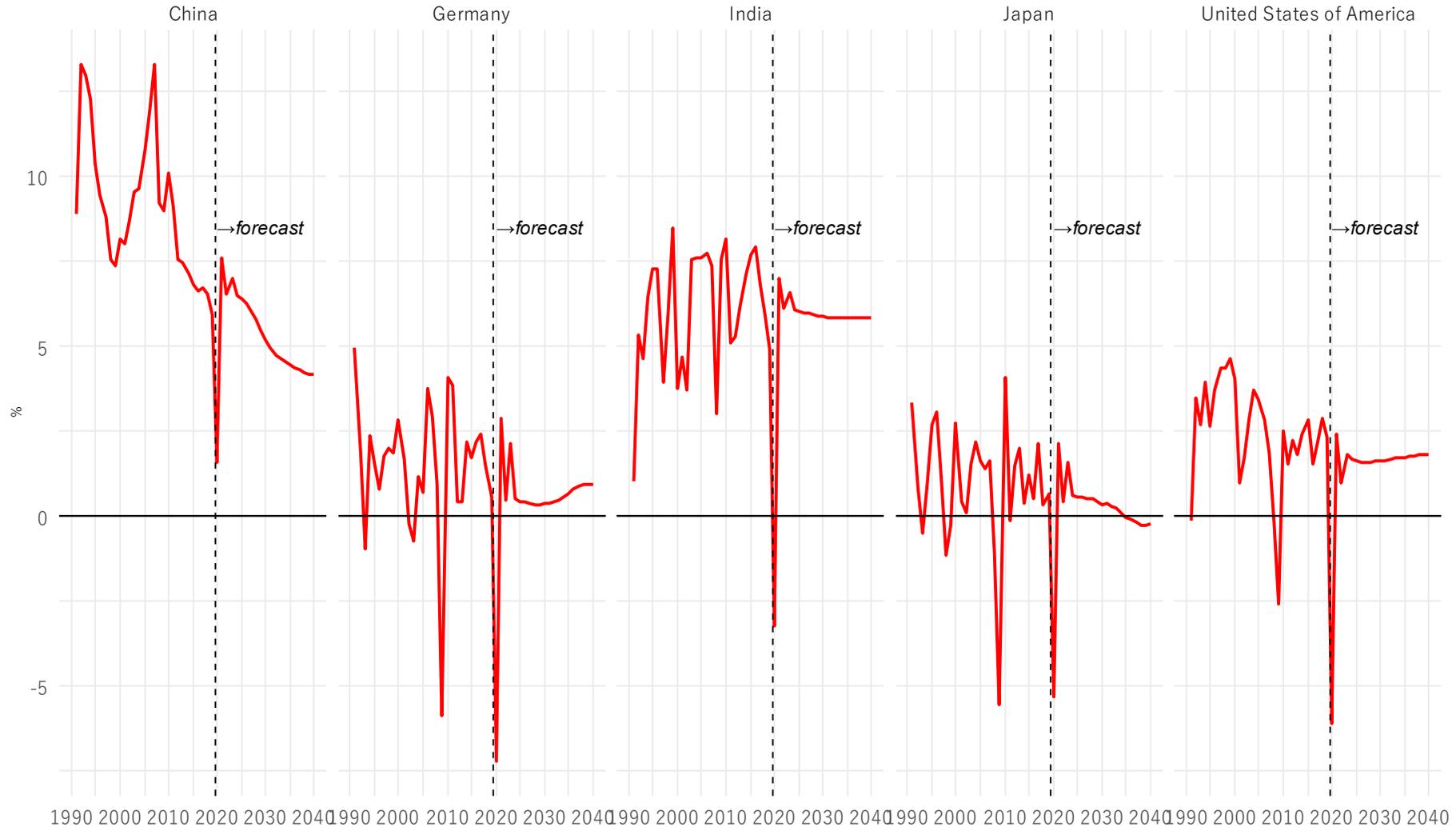
(出所) Eurostatより第一生命経済研究所作成。

リーマン危機後に潜在成長率低下、今なお危機時を下回るペース
ユーロエリアでも家計&企業が貯蓄余剰に



主要国・成長トレンドの見通し

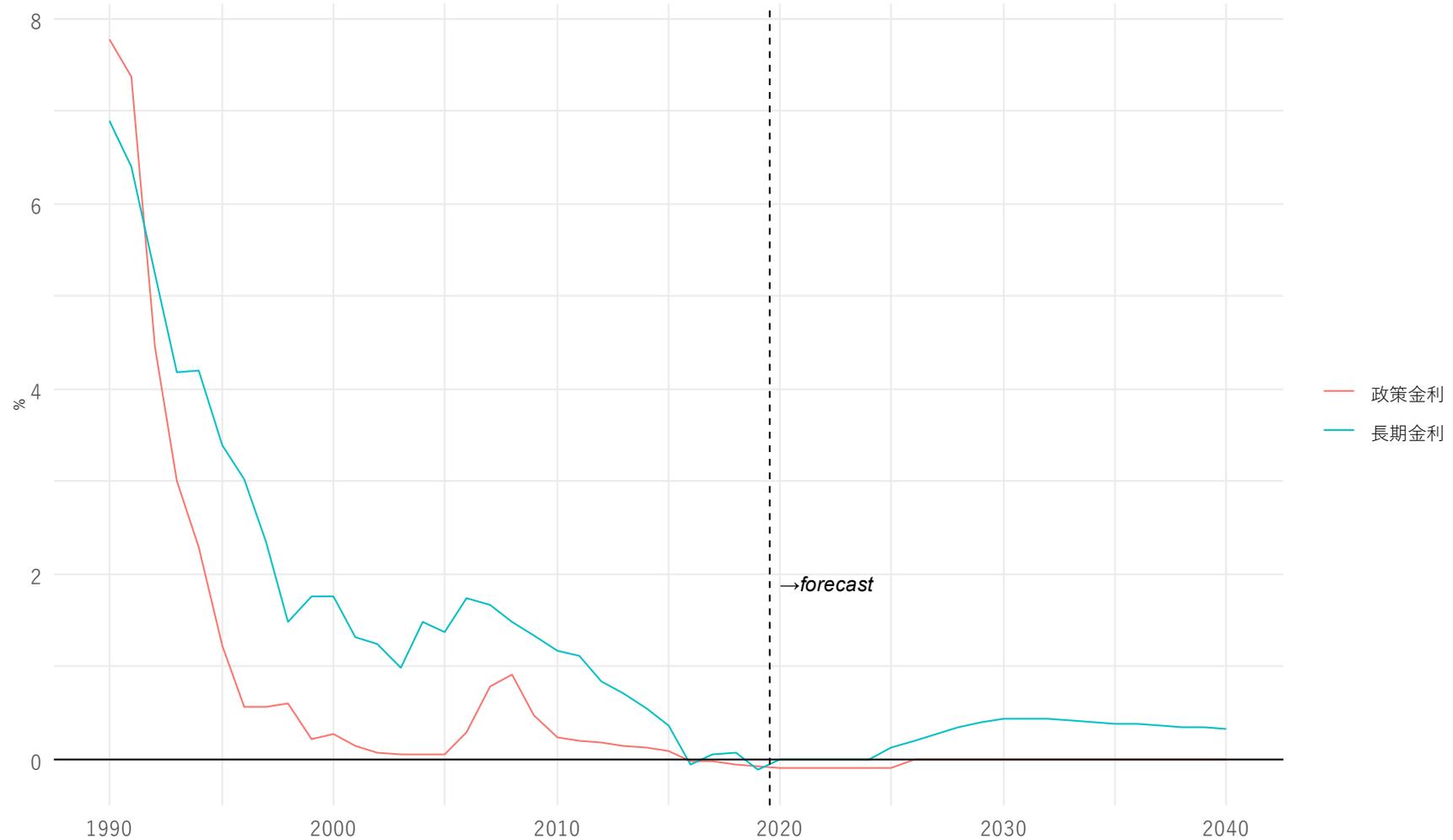
各国経済成長率の予測



1990 2000 2010 2020 2030 2040 1990 2000 2010 2020 2030 2040 1990 2000 2010 2020 2030 2040 1990 2000 2010 2020 2030 2040 1990 2000 2010 2020 2030 2040
 (出所) IMFなどから第一生命経済研究所作成。2020年9月作成。

人口動態を踏まえて推計。日独中は高齢化進行が下押し圧力に

日本の金利見通し



(出所) 各種資料より第一生命経済研究所が作成。2020年9月作成。

段階的な政策正常化を見込むが、金利上昇余地は限定的